

Waseda-Peking Joint Workshop on Green Innovation 2014 に参加して

リーディング理工学博士プログラム

3期生 (LD1年) パーキン暖

本年4月に5年一貫制博士課程の新専攻「先進理工学専攻」に入学し、他分野の学生との交流や新たなチャレンジへの期待に胸弾ませていた私にとって、この北京大学とのワークショップは入学早々得た好機でした。

ワークショップは、選択テーマに関する「将来のビジョン」についてチーム対抗でプロポーザルを競うというもので、私のチームは“Energy devices for the next generation”をテーマとし、メンバーは北京大学化学院の博士3年生、同1年生、リーディング2期生(LD2年)の佐藤歓先輩でした。初めてのSkype会議ではメンバーの案を聞いてばかりでしたが、先輩からアドバイスを頂き、気持ちを変え、積極的に発言できるようになりました。私が筋肉の運動メカニズムを利用した人工筋肉を提案し、先輩が有機化学の知識を基にそのアイデアをモデル化、北京大学院生とディスカッションを重ね、“Soft Motor”の提案に至りました。様々な専門分野の人が集まり積極的な意見交換が成立する場合、可能性に上限はないのだと実感しました。

ワークショップ当日の発表は私が務めることになりました。チームの代表として話すプレッシャーだけでなく、初めてリーディングの大きなイベントへ参加していることや発表順番が最初であることもあり、緊張と不安を感じていた私は発表直前まで話す言葉を細かく考えていました。全6チームのプレゼン・質疑応答の後、5人の審査員による審査、そして結果発表。優勝は私たちのチームでした。一ヶ月間の努力が実り、嬉しかったです。全ては良いチームメンバーに恵まれたおかげであり、彼らに感謝しています。今回のワークショップは、これからの研究や開発におけるチームの重要性の再認識を促す有意義なイベントでした。



表彰式での優勝チーム集合写真